

地域連携活動と PBL

尾場 均

人間社会学部 国際観光学科

Regional alliances and PBL

Hitoshi OBA

Dept. of International Tourism, Faculty of Human and Social Studies

Abstract: PBL (Project-Based Learning) is an educational method which has begun to draw attention even in Japan.

Regional collaboration is necessary, especially in the field of tourism, and learning is done while proceeding with the project together with the client.

However, the main focus is learning, and it is key that a balance between the project and learning be maintained during the process.

For instance, the promotion of interaction between citizens and students occurs through presenting cultural aspects of Sasebo and useful local information.

This paper explores these activities and methods for evaluating the growth of the students.

Keywords: Regional alliances , Active learning, Fundamental Competencies for Working Persons , Project Based Learning

要旨： P B L (Project Based Learning)とは、日本でも注目されるようになってきた教育手法である。特に観光分野では地域との協働が必要であり、クライアントとともにプロジェクトを進めつつのラーニングということになる。主となるのはあくまでもラーニングであり、プロジェクトとラーニングのバランスを取りながら実践していくことがカギになる。佐世保の文化や情報の発信を通じて、市民の交流を促進することにより、様々な地域振興イベントや地域ブランドの開発など、地域活性化への取り組みにより、学生は社会人基礎力を獲得している。その具体的な取り組み内容や、育成の評価について考察する。

キーワード： 地域連携 , 社会人基礎力, プロジェクトベースラーニング

1. はじめに

長崎国際大学の国際観光学科では、地域と連携した専門教育のカリキュラムを整えた学科であり、学生の観光分野の知識と専門的な学びを実践している。地域にとっては、学生と協力し積極的に他の教育現場へ参加することで大学の存在が身近なものとなる。また、行政や社会との主体的な活動により、学生が自ら地域に貢献し地域との連携により相互理解を深め、学内で学んだ事を実践することに加え、世代や職種が異なる人々と交流することで幅広い知識を習得することができる。これは、主体的な学習機会の充実につながるものと考えられる。

2. 教育目標

市民とのコミュニケーションを促進する市民参加型イベントや地域ブランドを開発する段階において就業力を身につける授業内容を目指した。具体的な課題を、学生とのディスカッションで設定して、課題解決という目標に向かって意欲的に取り組む過程は、プロジェクトベースラーニング（Project Based Learning）を実践することで、社会人基礎力の獲得を目標としている。これは「課題解決型学習」であり、学生が自分で課題を発見し、自ら学び、主体的に判断する学生が学習の主体の学習方法で、実践的な学びを通して社会人基礎力を培い、産官学連携事業に積極的に取り組むことを目的としている。行政や社会との主体的な活動により、学生が自ら地域に貢献し地域との連携により相互理解を深め、学内で学んだ事を実践することに加え、世代や職種が異なる人々と交流することで幅広い知識を習得することができる。これは、主体的学習機会の充実につながるものと考えられる。

3. 若者人材育成支援事業とは

平成28年度若者人材育成支援事業活動として佐世保市と長崎国際大学との包括連携事業の一環として、佐世保市地方創生推進コーディネータである元日本テレビプロデューサーの菅賢治氏と尾場均が担当している専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（参加学生数30名）で構築された支援事業である。内容としては「ねんりんピック長崎 2016」でのおもてなしイベントの企画運営と、佐世保市PR動画（5本）を制作した。地域資源を生かしたイベントの企画・運営やPR動画を作成することにより、まちづくりに主体的に関わる専門的知識を有する人材の育成を行い、若者がまちに愛着を持つとともに、若者によるまちづくり活動を推進することを目的とする。

4. プロジェクト学習（PBL）と映像制作

プロジェクト学習とは事前に学習者自身が目的と目標を自覚し、何のためにこのプロジェクトをやり遂げるのかを自分自身が自覚していること、そして、基本的なフェーズ（段階）に沿っていること、そして目標や結果へ近づくための過程において自分自身の知識を積み上げていくことで、最終の成果物や結果を得ることである。これまでのPBLでは課題解決力や目標解決への学習として実践されているが、映像制作におけるPBLでは、クライアントの存在は大きい、最終的な目標定義と成果物の評価はクライアントではないということである。産官学と連携することにより幅広い情報を得ることで視野が広がり、コンピテンシーが身につく効果的なプロジェクトであった。

5. おわりに

この若者人材育成支援事業の活動で、通常の授業で行われる内容とは違い、学生はクライアントの意見や要望を聞き、自分たちで問題解決を探り、高いレベルの映像制作を行った。

PBLは学生にとっては社会に出てから役に立つ実学であり、チームでプロジェクトに参画することで得るものは非常に多い。企画力や実践力、想像力、親和力、協働力や先輩後輩との接し方、リーダーシップ、さらに仲間や友達作りにも効果が見られた。大学教育の中でPBLを実社会で活躍できる人材を育成していく上で、さらに教育内容を充実・発展させ、つねに見直しを図っていくことで、高度な専門性と社会性を持つ人材を育成したい。